

昭和48年1月13日第三種郵便認可

HSK通巻506号

発行日/2014年5月10日(毎月10日発行)

編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光

北海道白老郡白老町字萩野 310-110

TEL (0144) 83-3537

会報/212

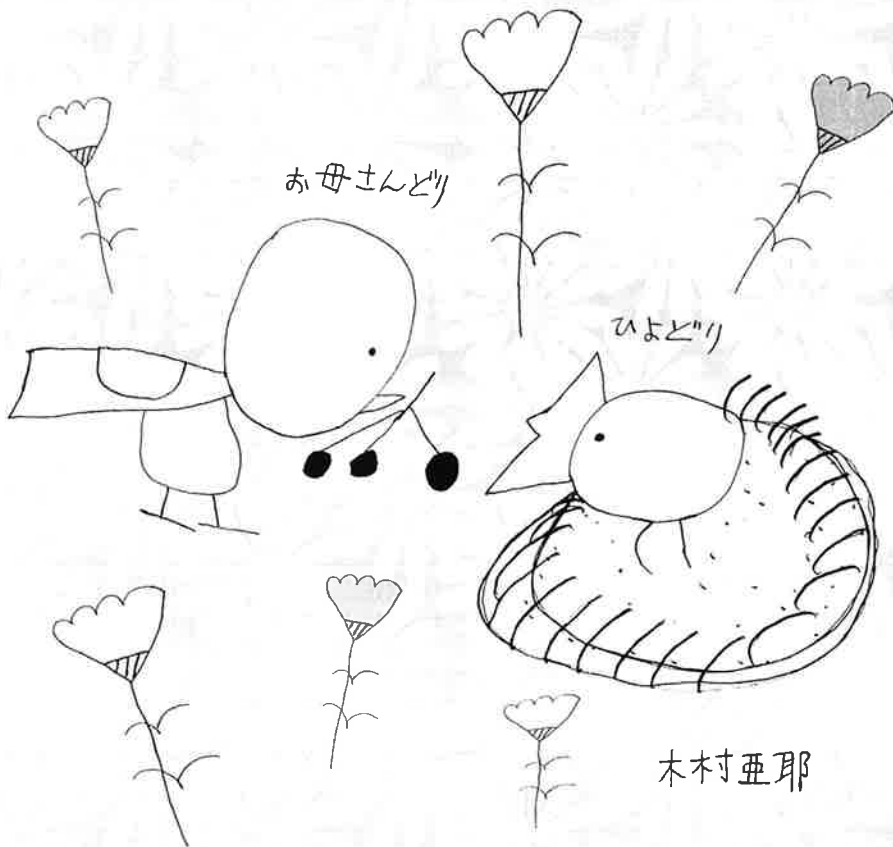
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

定価/1部100円(会費を含む)

HSK

2014. 5月号

ほほえみ



白老町手をつなぐ育成会

仕事作りの難しさ

「その人にあった仕事」それは障がい者に限らず難しい課題だと思います。今の仕事にあまり向いていないと思っても、生活のために働いている人もいます。働きたくなくても生活のために働いている人もいます。本当は、働くことが生き甲斐になり楽しくありたいと思うのですが、そんな甘いことを言っていたら暮らしていけないという言葉にも一理あります。

障がい者の仕事作りは尚いっそう難しくなります。体のバランスがうまくとれない人や、手先が不器用な人、力のない人、集中力のない人、パニックになる人、それぞれの障がいによってできないことや苦手なことはたくさんあります。

そんな時、考え方を変えてみることにしています。出来ることをうんと探して、できる事を仕事にするのです。仕事というものは、新しい富を産み出さなくてはならないので、大変です。出来ることを仕事にするのが大変なのです。

6月から、登別の市民会館の喫茶ハーモニーでも施設外就労という形で利用者が働くことになりました。利用者にとっても新しい世界への挑戦ですので、何か落ち着きません。

フロンティアにとっても一度に3カ所施設外就労という形をとりましたので、送迎や勤務のローテーションを確立するだけでも大変な労力です。

フロンティア登別のその後

4月17日に実施設計と工事監理業務の委託契約の入札を行いました。3社が入札に参加し、(有)画建築設計さんに決まりました。2か月位かかって実施設計が出来上がったら、公告をし入札となります。

うまく進行すれば8月末には工事が着工できる予定です。来年の2月中には建物が完成し、3月末には事業を開始したいと思っています。

どんな建物ができるのか、とっても楽しみな反面これから忙しくなるといった気持ちがせつつかれる感じもしています。

【訃報】今まで養鶏に力を発揮してくれていた鈴木忠雄さんが、5月8日に間質性肺炎で亡くなりました。体調の不良を訴えて、5月4日に病院を受診、即入院となり、4日後に亡くなりました。難病とはいえあまりにも急な事態に信じられない思いです。今までのご尽力に感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

本格的な畑作り

トラクターに乗っているのは西本さんです。このトラクターは5年位前に厚真の海沼さんの紹介で買ったものです。今まであまり活躍する場がありませんでしたが、昨年度ぐらいからエコ班の藤田・鈴木さんが有機農業を始めましたので、飛生の養鶏場の横の畑耕しに活躍できるようになりました。今年はフロンティアの前の土地も北昭興業（株）さんからお借りして（約1,800坪）、花や他の作物も植えてみようと考えています。

買ったときは、小さなトラクターに見えたのですが、こうやって人が乗って運転してみると、やっぱりトラクターに見えてきます。



農業は、人間が働く原点の様な気がします。人間も退職をしてフリーになると畑を耕す人が増えますが、生きている物を育てる楽しみや喜びが感じられるからだと思うのです。

それなのに、日本の中からたくさんの故郷が消えようとしているのは寂しいですね。

ふろんていあ♡メール

Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL

2014年5月号

〒059-0922
白老町萩野310-110
TEL・FAX0144-83-3537

今年リニューアルオープンしたCafeリムセ

施設外就労に取り組む



フロンティアは、障害を持つ人たちが働く就労支援事業所として平成17年に開設したが、本年度からは「カフェリムセ」・「北乃博物館」・「喫茶ハーモニー」の3事業所と契約をして施設外就労に取り組むこととした。今回は、カフェリムセを紹介します。

カフェリムセRIMSE(リムセとはアイヌ語で「踊り」)

カフェリムセは、アイヌ語地名のポロト湖畔にあるポロトコタン「大きい湖の集落」のほぼ中央にある。ポロトコタンはアイヌ民族の伝統的な集落を再現した野外博物館で博物館や5軒のチセ、植物園などがある。一般財団法人アイヌ民族博物館が運営し、2020年度内に国立の博物館を中核施設とする「民族共生の象徴となる空間」の開設が計画されている。

「4月27日リニューアルオープン！」と博物館のHPに紹介。大人気のアイヌの伝統料理オハウ(鮭と野菜のスープ)といなきびご飯のセット、新メニューのニセウうどん(どんぐり粉入りのうどん)などの軽食や名物のサッチェブ(鮭のくんせい)などを販売。

店の入り口のMuseum Cafe RIMSEと書かれたアイヌ文様の看板が印象的。その前で立ち止まってハイチーズ!の風景も度々。唯一の「アイヌ民族博物館」ということで各国から頻りに来客があり国際的である。

施設は骨組みの頑丈なビニールハウスですが、店内は天井や壁に筆簾が張られて一見チセの雰囲気。メニューなども田湯店長のデザインのアイヌ語メニューの説明書きがあり、つい読んでしまう。職員2人・利用者4人が仕事に励んでいる。

リムセのスタッフです!



(小雨の中リムセお店を覗いてみた。)

(記者) おはようございます。本日は、ふろんていあメールの取材に伺いました。

【一同】 はい!どうぞ!(元気な声が返ってくる。・・・晴れ。)

(記者) 最初に全員の集合写真を撮らせてください。

写真左から「職員の丸山貞子・田湯美那子・利用者の野中敬子・斉藤かをる」(本日非番の方: 職員の佐藤美穂子、田湯ひろみ、利用所の門脇千夏、赤川小百合)

(記者) 田湯店長さん若いんですね。教育大学では何を勉強されましたか?

【田湯】 美術教育。デザインを勉強しました。

(記者) 4月1日に採用され、リニューアルオープンの準備を任せられ、開店まで大変でしたね。アイヌ民族博物館という特殊な環境ですが店長としてアピールは?

【田湯】 3月の末に初めてここに来て博物館の方に案内してもらってから、新メニューづくりなどに取り組み大変な1ヶ月間でした。もともと料理が趣味で学生時代は毎日弁当を作っていました。博物館の中にあるので縛りもありますが、アイヌ文化に協調して



店長は若い! 田湯美那子さん

博物館の方たちの協力を得て進めさせてもらっています。考えとしてはアイヌ文化の伝承に参加させてもらい、未来作りに協力して行きたい。

(記者) :今のメニューと販売品目はどのくらいありますか？

「田湯」 :メインはうどんとオハウとベネイモなどのほか販売品も入れて20以上ですね。
(いらっしやいませ！の声があがる。車いすの外国人カップルのお客様が入って来る。)

(記者) :今の一番人気は何ですか？

「田湯」 :実際出ているのはニセウうどんです。

(記者) :店長としてのお勧めはありますか？

「田湯」 :やはり自分が作ったメニューの「ニセウうどん」ですね。
アイヌの人たちも食べていた鹿肉も入れて作ってみました。
もともと白老牛という話もあったんですが。
(突如、猛烈な雨がビニールハウスを打ちつける。)

(記者) :店長の仕事は利用者の支援をするなど大変な仕事ですが如何ですか？

「田湯」 :もともと姉に障がいがあり、その関係で佐藤施設長ともつながりがあったが、外側から見てきた感じがあります。支援とかボランティアは正直今までは避けていたような気がします。大学の行事で少し関わったが、仕事では初めて。あまり深く考えていないけれど、ここでは支援員という立場よりも一緒に作って行きたいです。

(記者) :話が急に変わりますが、今日も来客者はかなりの率で国際的ですか？

「田湯」 :そうですね。外国語で苦勞することもあります交流できるのは楽しいですね。
(ありがとうございました。丸山さんがカリフォルニアから来たというご夫婦と英語で対応している。店内は瞬間的に外国人5人対日本人5人の関係)



利用者にインタビューしてみました・・・

ニセウうどんを売りたい!

門脇千夏さん：(4月に喫茶部門を縮小した売店「茶連慈」と掛持ちで活躍している。)

(記者) :門脇さん、こちらの仕事はどうですか？

「門脇」 :茶連慈では最近発注などの仕事もすることになり、精神的には大変。
こちらは客数が多く忙しい。(忙しいのが大好きそう。)

(記者) :門脇さんは、今はどんな仕事を？

「門脇」 :ソフトクリーム販売を主に。配膳、食器洗いなど。

(記者) :何が売れていますか？

「門脇」 :洋梨のタルトポアールが意外と売れているかな。

(記者) :新規事業所での抱負は？

「門脇」 :抱負？・・・アピールしたいことは、茶連慈で開発した「うどんぐり」をこちらでは鹿肉や椎茸を入れて改良し新メニューの「ニセウうどん」として販売しましたが、これを売ってきたいなと思います。
(いらっしやいませ！こんにちは！の声かけも慣れたもの。)



ハウマツチ?・・・センキュー!

野中敬子さん(利用者):(この5月24日に閉店するコミュニティ喫茶ケサラの顔として活躍していた。)

(記者) :喫茶ケサラも経験していましたがこちらの仕事はどうですか？

「野中」 :こちら楽しいです。

(記者) :野中さんは今はどんな仕事を？・・・(傍らで外国の方が、ワン!ハウマツチ?)

「野中」 :(物怖じもせず)「センキュー!」。(野中さんのキャラクターが晴れ!)

厨房からも一斉に「ありがとうございます。」の声が上がる。

誌面の都合で以下インタビューは省略します。

斎藤かをるさん：(茶連慈に勤めていました。よろしくお願ひします。)

赤川小百合さん：(コミュニティ喫茶ケサラでしたが、5月26日からリムセに勤務です。)

(記者) :新作のニセウうどんを食べてみたかった。リムセのみなさんこれからも頑張ってください。



5月3日春のコタンノミ(村祭り)が開催された。その風景の一部。

耳寄りな話：町民の入館料・駐車場料金は無料です。何か証明になるものを提示してください。新緑のポロトコタンへ足を運び、カフェリムセにもどうぞお立ち寄りください。

日ハムVSオリックス観戦



5月2日（金）の日本ハムVSオリックス戦の『福祉シート』の寄贈が（株）日本ハムファイターズありました。

早速、新車のマイクロバスで山下さんの運転により12名が観戦してきました。ナイター試合で、4対1で日本ハムが勝ち、西川選手と中田選手がホームランを打ちました。観に行った12名はご満悦の日でした。



左の写真は楽しそうに運転している山下さんです。中田選手もかっこいいですね。この写真は金子さんが撮影してくれたものです。

問題は、肝心の観戦の写真が2枚しかなくてその2枚ともぼけていた事です。そしてチアリーダーの写真の多さでした。



支え合う

視覚障害者エスコート

手助け 声掛けから

白杖を持つたり、言葉大を運れた視覚障害者が道中で困っていたら、あなたはどう対応しますか。親切心からとあれ、黙って手を引いたりすると視覚障害者は不安や恐怖を感じるもの。当事者たちは「困っているな」と思ったり、あなたは声掛けをと呼び掛けている。
(員沢真子)

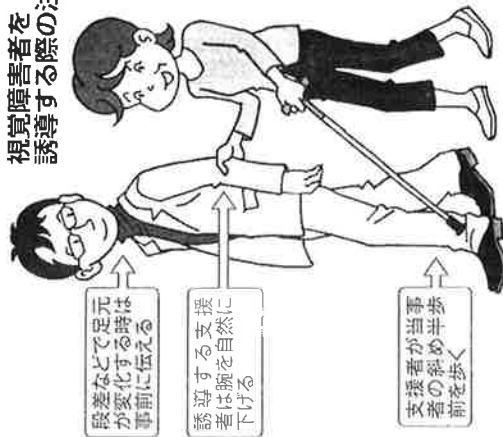
知人と待ち合わせをしていた視覚障害者の当事者。通り掛かった健康者が「道に迷っている」と思い込み、勝手に手を引く張つて移動させたため、当事者は自分がどこにいるのかも分からなくなりました。札幌市視覚障害者福祉協会の小宮肇生さん(46)が経験者から聞いた事例だ。

視覚障害者を手引きする際、絶対にやっちゃいけない行為は、何も言わずにそのまま勝手に引く張つたり、腕や手をつかむこと。後ろか

ら当事者の肩を押ししたり、何も説明せずその場に置き去りにすることも、当事者には不安以外の何ものでもない。小宮さんは「役立ちたいという思いは分かるが、黙って誘導されると当事者は怖さを感じてしまう」と注意する。

一番大切なのは声掛け。道に迷つたら困つた様子の人を見かけたら「お手伝いしますか」「何かお困りですか」と話しかける。自身も全盲である同協会の沢田勝彦会長(64)は「支援を必

視覚障害者を誘導する際の注意点



- やってはいけないこと
- 黙って手を引いたりつかむ
- 後ろから押す
- 場所など何も言わずに道を振り回す

段差などで足元が変化する時は事前に伝える

誘導する支援者は腕を自然に上下させる

支援者が当事者の歩幅を歩幅に合わせて誘導する

不安や恐怖考えて

黙って手を引くのはだめ ■ 路面状況や方角 具体的に

黙して手を引く時、当事者は申し手を断ることもありますが、気が付くのは次の機会にも聞き直してはいい」と話す。

では、支援を頼まれたらどうすればいいか。まずは当事者本人に希望を聞いて。基本的な誘導方法としては、左右どちら側に立てばいいか、肩や肘のどこにつかまっておもらかなどを尋ねる。その際、支援者は自分の腕の位置などを当事者に知らせる。慣れないためか、緊張してしまう支援者も多いが、リラックスして腕を動かさないようにした方が当事者も歩きやすい。

誘導する際は支援者が当事者の斜め半歩前を歩く。角を曲がる前や、砂利道やブロックなど足音が変化する時は「右に曲がります」「砂利道です」と当事者に伝える。角を曲がる時は、しっかりと角度をつけて曲がる。当事者も認識しやすい。階段・スロープの場合は上りと下りの種別についても当事者に告げる。

方角を説明する時は「あちら」「そこ」などの指示語ではなく「前後左右や時計の〇時方向」などと説明すれば伝わりやすい。

視覚障害者といつても全盲や弱視など、その人によって見え方が違い、欲しい情報も異なる。「支援者は視覚障害者の当事者が欲しい情報を知り、いかに提供するかが大切」と小宮さん。沢田さんは「歩き慣れた道でも、工事やついでなど、いつもと異なる状況のときは察してもらえないと歩きやすい」と話している。



HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
発行日 2014年5月10日発行(毎月10日発行)
HSK通巻番号506号
編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
TEL 0144-83-3537
会報/212号
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費に含む)